

# 哲學研究

第二十册 第二卷

第十二號

大正六年十二月一日發行

最近のライブニッツ研究に就て……文學士 錦田義富

十九世紀後半に於ける倫理學說の發達……

……文學博士 中島力造

デュロイの教育論……文學士 篠原助市

大鹽中齋の學說(完結)……文學博士 高瀬武次郎

彙報 新著紹介……

京都帝國大學文學科大學內

京都哲學會

## 京都哲學會規則

- 第一條 本會ヲ京都哲學會ト稱ス
- 第二條 本會ハ廣義ニ於ケル哲學ノ研究及其普及ヲ以テ目的トス
- 第三條 本會ハ前條ノ目的ヲ達センガ爲メ左ノ事業ヲ行フ
- 一、毎月一回研究會ヲ開ク
- 一、毎年春秋二回公開講演會ヲ開ク
- 一、毎月一回雜誌『哲學研究』ヲ發行ス
- 第四條 本會事務所ヲ京都帝國大學文科大學内ニ置ク
- 第五條 本會ノ事業ヲ經營スル爲メニ左ノ役員ヲ置ク
- 一、委員(若干名) 京都帝國大學文科大學哲學科教官及委員會ニ於テ推薦シタル者ヲ以テ之ニ充ツ
- 一、書記(一名) 委員會ニ於テ囑託ス
- 第六條 本會ノ趣旨ニ賛同スル者ハ何人ニテモ會員タルコトヲ得
- 學校、圖書館、教育會、其他ノ團體ハ其團體ノ名ヲ以テ入會スルコトヲ得
- 第七條 會員ハ會費トシテ年貳圓貳拾錢、前後二期ニ分チテ前納スベキモノトス
- 第八條 會員ハ本會ノ諸種ノ會合ニ出席スルコトヲ得且ツ雜誌『哲學研究』ノ配付ヲ受ク
- 第九條 本會規則ノ改正變更ハ委員會ノ決議ニ依ル

## 京都哲學會役員

### 委員

文學博士	西田幾多郎
文學博士	朝永三十郎
文學士	千葉胤成
文學博士	狩野直喜
文學博士	米田庄太郎
文學博士	高瀬武次郎
文學士	中川得立
文學士	植田壽藏
文學士	野上俊夫
文學博士	松本文三郎
文學士	深田武
文學博士	深田康算
文學博士	藤井健治郎
文學博士	小西重直
寶嚴	方治

### 書記

である。固より藝妓も時には便利なる事のある如くかゝる著書も時には——例へば智的遊民が智的戰士になり初めた時の如きには——相當の價値を發揮しはするが多くの場合價値があり相に見え乍らそんなに尊いものではない。それはあつてもよいがあらねばならぬものでは決してない。宮川氏の「聖書の話」の序文を讀んだ時私は恐らくそれは一般智的貧民を賑はさんとするの書であらう、若し然らずんば少くとも智的遊民を馳つて智的戰士に變ぜしめるに足るだけの精氣がある書であらうと思つて、ことに聖書に關しては新らしい自由な現代の因はれざる精神を以てせうした目的を以て書かれた書の少ない日本に於て斯る書の表はれた事に對して多大の喜を以て頁を繰つて行つた。然し私はどこ迄進んで行ても遂に聖書に於ける諸々の書の著者に關する考證や聖書に記載された事實の歴史的價値や諸書の眞偽や記述の異同やなどを智的貧民に取つては詳密に過ぎ智的戰士に取つては嚴密を缺くの程度を以て叙述してあるに過ぎず智的遊民の智的好奇心を單に満足せしめるに過ぎない著者であるのを發見して私は失望したのである。其態度の或程度迄科學的であり批判的である事は題材が題材であるだけ大に多とするに足るが斯くの如き書に關してかゝる「下より」の叙述を——固より専門家を相手とするもつと嚴密なる純史的研究ならば其自身として價値はありはするが斯くの如きの程度に留め且つ一般讀者を對象とし乍ら——平々坦々と進ぶに留めて其考證批判と共に次の奥に隠れたるもつと深くして微妙なる靈氣の發揚に觸るゝ事の甚しく淺かつたのは此上無き遺憾である。單なる歴史に於ても猶事實の考證や異同の辨別に留まらず其間に

呼吸してゐる精神の息吹を書き分ける事が肝要であるのに殊に聖書の如きものに關して(固より單調な、安價な感激に充ちた傍點の煩はしく打つてある文字だけはありはするが)殆どそしうた内奥のものに觸るゝ事の少なかつたのはどうしたわけであらうか。さればこそ豫言者の本性に關する解説などにも文字の表面に因はれた淺い解釋を施すに留まり、單に豫言者<sup>プロフェト</sup>と云ふ語の歴史的起原が亞拉比亞語の「宣言」と言ふ意味に存して未來を語ると云ふ意味ではないと言ふ根據よりして偉人は聽てイブセンの言つた様に常に本質的に無意識に「未來に接して立つ」もので従つてニイチエがシヨペンハウエルの著書を以て己の爲めに書かれたものだとした様に福音書の記者がキリストの或行爲を以て舊約書中に記された豫言の完成なりとした深い微妙な心理状態なども、殆ど透徹した理解なしに論じ去るに至つたのである。メシア出言の豫言などに關してもクローノ・フィッシャーの近世哲學史序論に見る様な深い解釋は其影さへも見出す事は出来ない。其上歴史的考證の行き方にも随分思ひ切つた點も屢々ある。此書の長所は靈性の貧しいにも係らず筆の上に彈力と潤ひのある事と明快な事と秩序的なると實證的である事とであらう。繰返して言ふ、此書はあつても悪い書では無いがあらねばならぬ書と爲るにはもう少し嚴密になるか靈性を加へるか若しくはもつと通俗簡單になるべきかであらう。(岩波書店發行 定價一圓二十錢)(岡本春彦)

## 寄贈雜誌

哲學雜誌、思潮、丁酉倫理講演集、心理研究、東西之光、早稻田

文學、學校教育、教育、内外教育評論、普通教育、小學研究、教育學術界、教育界、新公論、教育時論、東京教育、兵庫教育、奈良縣教育、靜岡縣教育、岐阜縣教育、三重縣教育、愛知教育雜誌

長崎縣教育雜誌、都市教育、佐賀縣教育、藝備教育、宮城教育、愛媛教育

### 前 號 目 次

大鹽中齋の學說……………	文學博士	高 瀨 武 次 郎
ルウンオの畫ける自然……………	文學士	植 田 壽 藏
力の觀念の歴史的發達……………	理學博士	桑 木 彥 雄
ミカイロヴスキの社會學說の創始的價值(承前)……………	……………	米 田 庄 太 郎
美學の基礎に就ての考察(承前)……………	文學博士	深 田 康 算
彙報——新著紹介……………	……………	……………

告 會

一、本會へ入會希望ノ方ハ直接本會宛テニ御申込被下度候  
 一、會員ニシテ轉居セラレタル節ハ直チニ其旨御報知被下度候  
 一、會費ハ振替口座大阪參〇六六參番、京都哲學會宛テニ御拂込被下度候  
 一、本誌ノ編輯ニ關スル通信及紹介・新刊書・交換雜誌等ハ凡テ本會宛テニ御送被下度候

京都帝國大學  
 文科大學内  
**京都哲學會**  
 振替口座大阪參〇六六參番

價 定

冊	數	定	價	郵	稅
一	冊	金	貳	拾	錢
六	冊(前金)	金	壹	圓	貳
十二	冊(前金)	金	貳	圓	四

廣 告 料

一頁 金拾圓 半頁 金六圓

定 規 文 註

◎會員にあらざる講讀者の御註文及び廣告に關する件は寶文館へ御申込下され度候  
 ◎本誌の御註文はすべて代金郵稅共前金にて御送り下さるべく候  
 ◎振替貯金にて御送金は(東京二八〇番)寶文館宛に願上候  
 ◎前金切れの場合に「前金切」の印章捺捺致すべきに付直に御拂込下され度候  
 ◎見本御入用の場合は金貳拾錢御送り下され度候  
 ◎特に請求書及領收書等を要する場合は郵券三錢御送付下され度候

大正六年十一月二十七日印刷納本  
 大正六年十二月一日發 行

第二十一號 第十二卷



編輯者 京都帝國大學文科大學内

右代表者 寶 嚴 方 治

發行者 大 葉 久 吉

印刷者 青 柳 十 一 郎

印刷所 秀英舍第一工場

發行所 (東京) 東京日本橋區本石町三丁目

發行所 (大阪) 大阪市東區淡路町四丁目

發賣元 (東京) 東京堂、東海堂、北隆館、

賣捌所 (京都) 寶文館 (大阪) 盛文館 (神戸) 寶文館